

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

## 大豆・野菜・花き類でのチョウ目害虫の防除の徹底について

### ーチョウ目害虫の発生が増加していますー

大豆でのハスモンヨトウの発生は平年より多く、フェロモントラップでの誘殺数も急増しています。また、オオタバコガについても、フェロモントラップでの誘殺数が急増しており、今後、大豆、野菜類、花き類においてこれらのチョウ目害虫による被害を生じる恐れがあります。

については、圃場毎の発生状況を的確に把握し、発生程度に応じて薬剤防除等を実施するよう生産者に対する指導をお願いします。

#### 1. 発生状況

##### 1) 定期調査(9月19~25日)における圃場での発生状況

###### 【大豆】

(1) ハスモンヨトウの発生圃場率は68.2%、発生株率は10.1% (平年5.1%、前年2.0%)であり、平年および前年より多かった(図1)。発生程度は圃場間で差がみられ、一部で多発生圃場もみられる(表1)。

また、オオタバコガ(発生株率0.3%)、シロイチモジヨトウ(発生株率0.8%)の発生も認められた。



ハスモンヨトウによる大豆の被害

###### 【野菜・花き類でのチョウ目害虫による食害株率】

(1) イチゴでは3.3% (平年0.9%)であり、平年に比べ多く、ナスでは2.7% (平年1.2%)、キクでは2.0% (平年0.9%)であり、ともに平年に比べやや多かった。

##### 2) フェロモントラップにおける誘殺状況

(1) ハスモンヨトウおよびオオタバコガの雄成虫の誘殺数は、9月中旬以降に急増し、平年よりやや多く推移している(図2、3)。



チョウ目害虫によるキクの被害



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

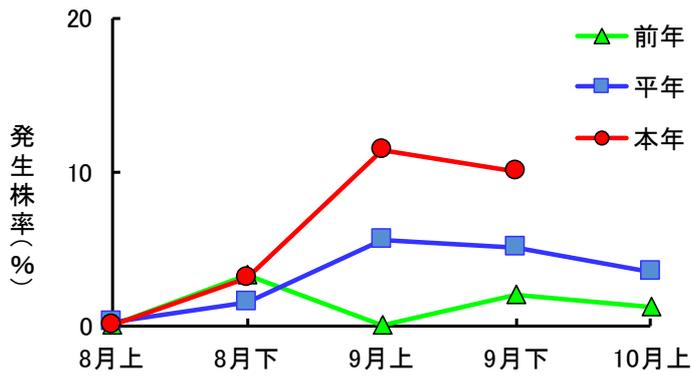


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

表1 大豆の定期調査地点におけるハスモンヨトウ幼虫の程度別発生状況

発生株率の区分	発生圃場率 (%)
0%	31.8
1~20%	54.5
21~40%	9.1
41~60%	4.5
60~100%	0

平成30年9月20~25日、22圃場調査

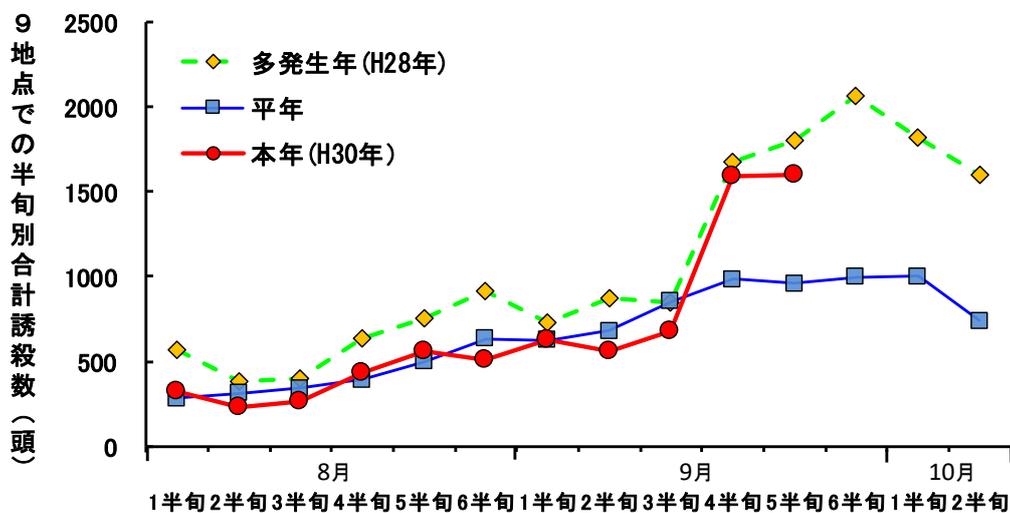


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数 (農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。)

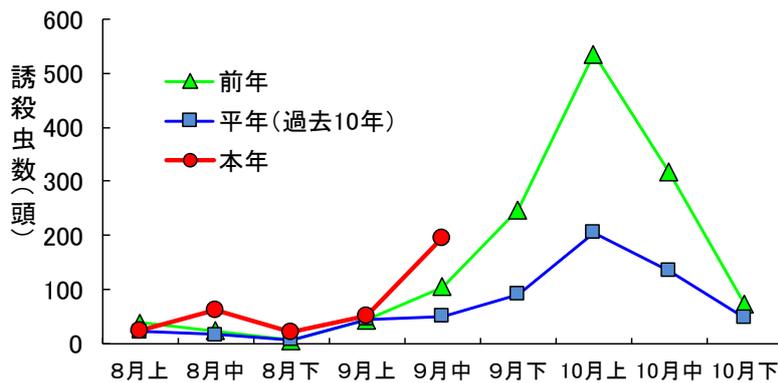


図3 フェロモントラップによるオオタバコガ雄成虫の旬別誘殺数 (佐賀市2地点での平均誘殺数)

## 2. 防除対策

### 【大豆、野菜類、花き類全般】

- 1) 発生程度は、圃場毎に大きく異なるため、必ず各圃場での発生状況を確認する。
- 2) 薬剤防除に当たっては、使用方法(収穫前日数等)を遵守し、虫体によくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤感受性の発達を防ぐため、系統が異なる薬剤のローテーション散布を行う。なお、中・老齢幼

虫には、粉剤より液剤（水和剤、乳剤、フロアブル剤等）の効果が高い。

3) 幼虫は、齢が進むと薬剤の防除効果が上がりにくいいため、若齢幼虫期に防除を行う。

4) 幼虫は大きくなると日中は物かげにかくれ、夜間に活動する習性があるので、薬剤散布は夕方に行う。

#### 【大豆】

1) 白変葉が散見され始めたら、早急に防除を行う。なお、すでに薬剤防除を行った圃場においても新たな白変葉や幼虫の発生がみられた場合は追加して薬剤防除を行う。

2) その他の防除対策については、「平成 30 年度 病害虫防除のてびき（水稻・大豆・果樹・茶）」のハスモンヨトウの項(p. 196～196、202～204)を参照。

#### 【野菜類・花き類】

1) 野外で増加した成虫が圃場内に侵入、産卵し、被害が発生する恐れがあるので、施設開口部に防虫ネット(4mm 目以下)を被覆する。

2) 幼虫の施設内への侵入を防止するため、ハウス周辺に水を溜めた遮断溝を設ける。

3) 卵塊やふ化幼虫は見つけ次第除去し、適切に処分する。

4) 幼虫の寄生や被害が見られたら早急に薬剤防除を行う。

5) その他の防除対策については、「平成 30 年度 病害虫防除のてびき（麦類・野菜・花き・飼料作物）」のオオタバコガ(p. 162)、シロイチモジヨトウ (p. 163) ハスモンヨトウ(p. 164)あるいは各野菜類・花き類のチョウ目害虫の項を参照する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
--